

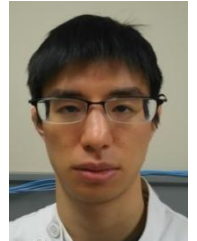
ひまわりクリニックきょうごく

ひまわり便り 第26号

今年も 若い医師が地域医療を学ぶため、クリニックで研修を行っています！

医師の研修とは、医師免許を取得したあと、指定を受けた病院等で定められた期間、様々な診療科を回り、医師としての経験を積むことをいいます。京極町のひまわりクリニックは、地域医療研修施設として、主に北海道大学病院の研修医を受け入れています。

今年も、4名の研修医がクリニックでの研修を行う予定です。現在は、北海道大学病院の「小田 義崇先生」が、5月8日（月）から6月2日（金）の期間、研修を行っています。研修最後の一週間となった先生に、京極町での地域医療に関わった一ヶ月間を振り返り、感想等を頂きましたのでご紹介いたします。



小田義崇先生

「京極町での研修を選んだ理由を教えてください。」

プライマリ・ケアの専門家の前沢所長がいらっしゃったからです。学ぶならば専門の先生に学ぶほうがよいと思って選択させていただきました。また、人口3,000人程度と北大の研修先病院の中では地域医療を学ぶには良い規模の町だと思ったからです。

「研修中での印象的なエピソードを教えてください。」

エピソードではないですが、ある日の診た患者さんのご家族を、翌日に診ることがあり新鮮でした。今までの研修では、基本的に患者さんとその家族という見方でしたが、ここではその家族の健康も含めて診ていることが印象的でした。



「クリニックでの研修を行い、地域医療について考えたこと・感想等あれば教えてください。」

院外の健康増進活動の多くに医師が参加していることに驚きました。福祉センターや役場との連携を通して治療だけではなく、予防に力を入れていました。

クリニックのカルテにもヘルスマネジメントという項目があり、その人の健康をどのように保っていくかを考えられているのが印象的でした。

また、住民の方々への啓発活動の必要性を学びました。専門職ではない方にいかに可能な範囲で医療を担っていただくことが人的資源の不足する小規模の町で有用であるかということがわかりました。

6月のお知らせ

6月5日（月）からの1ヶ月間は、北海道大学病院の「仙 万梨子先生」がクリニックで研修を行います。

外来診察に入りますので宜しくお願い致します。

